

## 情報の「見える化」を実現し、スピード経営で 最適環境を創造する総合エンジニアリング事業を前進

「Dr. Sum は、シンプルな集計を求めるエンドユーザのニーズに応える」



### INTERVIEW

井村 孝徳 氏

松下環境空調  
エンジニアリング株式会社  
IT推進ユニット  
ユニットマネージャー

#### ▲経営情報も含めたすべての情報を 基幹システムで一元化し、オープンにする

空気・水・土・光の4つの領域を舞台に、「最適環境の創造」「環境保護事業」「省エネの推進(esco事業)」の調和をテーマとした総合エンジニアリング事業を展開する松下環境空調エンジニアリング。空調・衛生設備、生産プロセス関連設備、ガラス建築、排水処理設備、大気汚染防止設備など、同社が手がける事業は多岐にわたる。

2004年4月、同社は業務革新の推進を目的として、コンセプトから全面的に見直した新基幹システムをカットオーバーした。IBM AS/400で稼動する基幹システムに、工事の引合から受注、回収までに至るワークフローを展開。このワークフローに物件管理や財務会計、人事、事業計画、顧客管理、経費実績管理、業務申請(ワークシート)、電子帳票、経営支援などの業務機能をシームレスに連携させるといったものだ。

これまで多くの企業は、基幹システムの周辺に販売管理システムや在庫管理システムなど、様々なシステムを乱立してきた。それぞれの周辺システムは、独自に情報を持って稼動する。このため、もともと同じであるはずの情報が、システム毎にまったく違った形で表現されるなど、全社的に一貫性を持たせるのが非常に困難なことになっていた。これに対して同社は、あらゆるデータの入力と出力、ならびにその流れを基幹システムに集約し、完全な形で情報の一元化を実現したというわけだ。

さらに、こうして基幹システムでハンドリングされる情報は、プライバシーや業務上の機密に触れるものを除いて基本的にすべて従業員に公開されている。

この一連の取り組みの狙いについて、IT推進ユニットユニットマネージャー 井村 孝徳 氏は、次のように語る。

「経営情報も含めてすべてオープンにしなければ、本当の意味での情報共有は実現できません。また、情報をブラックボックスとして公開するだけではだめで、その情報がどういう経緯を経て生成されたのか、あるいはどんな要素から成り立っているのかといったことも知ることができなければ意味がありません。これを私たちは情報の『見える化』と呼んでいます。情報を

『見える化』することによって、はじめて業務改革を推進していくことが可能になるのです」

では、具体的にどのような仕組みのもとでエンドユーザに対して情報を公開しているのだろうか。そこで同社が導入したのが、Dr.Sumなのである。基幹システムから非定型でデータを抽出し、集計するためのツールとしてDr.Sumが活用されている。

多次元高速集計ツール  
**Dr.Sum**  
ドクター・サム  
採用のポイント。

#### ▲過去の実績データを細かく分析するよりも、 いかに簡単に集計できるかがポイント

松下環境空調エンジニアリングは、基幹システム(AS/400)の情報を公開するにあたって、当初はSQLによって直接データを抽出するという方法をとっていた。しかし、AS/400のデータ構造やSQLに関する知識を持たないエンドユーザにとって、これは荷の重い作業である。そこで同社は、エンドユーザからのリクエストを受け、個別の要件に対応する検索プログラムをSIベンダーに依頼して作成し、提供するといったことも行ってきた。

ただ、そこまでして作成した検索プログラムといえども、エンドユーザからの十分な満足を得ることはできなかった。「期待していたものとは少し違う」と、以後ほとんど使われなくなってしまうことが少なくなかった。あるいは、「やっぱり別の項目で集計し直してほしい」と、何度もプログラムの修正を要求されることもある。

この問題を解決するためには、エンドユーザが直接操作することができ、それぞれが思いどおりに情報を活用できるサブシステムを用意することが最善と考えられた。こうして同社は、Dr.Sumの導入に至ったのである。では、このツール選択の過程において同社は、Dr.Sumのどんな点を評価したのだろうか。井村氏は、こう語る。

「弊社のような建設業の場合、受注する工事の金額

# USERS REPORT

## 松下環境空調エンジニアリング株式会社

### INTERVIEW 松下環境空調エンジニアリング株式会社 IT推進ユニットユニットマネージャー井村孝徳氏

扱っている製造業や流通業などのように、過去の実績を高度な手法を使って細かく分析したところで、あまり意味はないのです。それよりむしろ、目的とするデータをいかに簡単に検索して、集計できるかがポイントとなります。昨年の売上が工事区分別ではどうだったか、月別ではどうだったかというように、様々な部門のエンドユーザの業務を補完するようなツールが望まれます。Dr.Sumはこうした我々のニーズに最も近いツールだったのです」

#### ▲企画、資材、人事など、幅広い業務部門でDr.Sumの利用が広がる

現在Dr.Sumは、松下環境空調エンジニアリングのすべての従業員（約380名）が使える環境にある。特別なPRやサポートを展開するまでもなく、業務の必要性から徐々に利用が広がっていき、すでに40～50名がDr.Sumのアクティブなユーザになっているという。

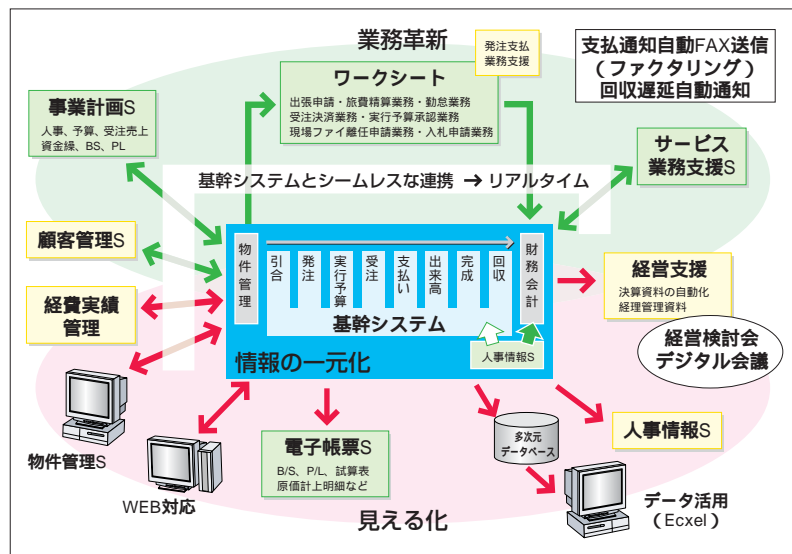
例えば資材部門では、「昨年1年間で、どんな外注先に対して、いくらの発注を行ったか」といった集計のためにDr.Sumが使われている。井村氏は、「弊社には資材のための独立したシステムはなく、発注はすべて基幹システムから直接行っています。このため従来は、こうした購買管理のための資料を作成するにはたいへん苦労していました。Dr.Sumを使

えば、特別な仕組みを作ることなく、シンプルな形で基幹システムと連携させてデータを活用することが可能であり、当該部門のみならず、私たちIT部門にとっても負荷削減の恩恵をもたらしています」と言う。

そのほか企画部門では、次期のビジネス方針を策定するためのベースとなる売上実績の把握のためにDr.Sumを活用している。また、人事部門でも、従業員の休日出勤および代休の取得状況を調査・集計するためにDr.Sumを活用するようになった。

もっとも、基幹システムからの情報のアウトプットのすべてをDr.Sumが担っているわけではない。定型的な情報提示のための枠組みとして同社は、電子帳票システムや経営支援システム、人事情報システムなどを構築し、運用している。Dr.Sumは、これらのシステムの隙間を埋めるとともに、「情報の中身をもう少し掘り下げて知りたい」、「違った角度から情報を見比べてみたい」といったエンドユーザのニーズに応えているのだ。

この結果、あまりリアルタイム性を必要としない非定型なデータの集計に関してはDr.Sumを利用するという共通認識が、社内に醸成されていた。「あらゆるデータが基幹システムに集約され、管理されているため、基本的にどんな項目で集計を行っても矛盾が生じることはありません」と、井村氏は力強く語る。多様な業務を担う裾野の広いエンドユーザに向けて、同社はさらなる情報活用を推進していく考えだ。



新システムで業務革新と見える化を推進

#### ● 松下環境空調エンジニアリング株式会社 プロフィール

創業：1976年  
本社：大阪府吹田市  
事業内容：工場ビル空調、クリーンルーム、水処理、下水道処理、生産プロセス、大気汚染防止、廃棄物処理、生産設備、土壌・地下水浄化、環境建築、サービスメンテナンス、太陽光発電、風力発電、HACCP、燃焼実験・火災試験設備などの設計・施工。あらゆる環境に最適の解を求め、人と自然にやさしい環境と文化の創造をご提案している。  
URL: <http://www.panasonic.co.jp/mea/>

Dr.Sum に関するお問い合わせ

Form&Data



ウイングアーク テクノロジーズ 株式会社

URL <http://www.wingarc.com/>

- [本社] 〒150-0044 東京都渋谷区円山町28-5 1st渋谷ビル  
TEL:03-5962-7300 (代) FAX:03-5962-7301
- [西日本] 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-8-17 大阪第一生命ビル11F  
TEL:06-6225-7481 FAX:06-6225-7482
- [中部日本] 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-3-4 名古屋錦フロントタワー3F  
TEL:052-218-9520 FAX:052-218-9521

開発元: Digital Works デジタル・ワークス株式会社

詳細 URL <http://www.drsum.com>

本リーフレットに掲載した会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。実際の製品と内容が異なる場合があります。本カタログに掲載される仕様およびデザインは、予告なしに変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。掲載内容は2005年3月現在のものです。